
メモリーズ

マコト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メモリーズ

【Nコード】

N0089P

【作者名】

マコト

【あらすじ】

高校の入学式で初恋した空見アキラ
高校での学園ライフが始まる

MEMORYS

あの日、私は恋をした。

あの桜が満開に咲いていた道で、あなたと初めて会った。

私はそのとき恋をした。

私の名前は空見アキラ。茶色い髪のショートカットのごく普通の女の子、街を歩いているといそうな顔立ちである。今は学生服を来ている。ピンクのブレザーと赤いチェックの入ったスカート。なんて派手な制服だろうか、でもこの学校の制服が可愛いからって入学してくる女子が多いみたいだ。

そんな彼女と彼の出逢いは入学式の日であった。

『桜、綺麗だなあ。』

アキラはゆつくりのんびり桜を見ながら歩いている。そんなのんびりしながら歩いているアキラの後ろから自転車を通った。黒い髪の毛で綺麗な黒い瞳、顔もスツキリとした爽やかな男の子、これを世間でゆうイケメンの分類になるのだろう少年が

『そんなゆつくり行ったら遅刻するぜ』

この少年も学生服をきている校章が一緒だから同じ学校なのだろう。男子の学生服は黒い学ラン…

『でもまだこんなに…』

とアキラは余裕ですよと思ってるらしいが

『えっと…あと5分で遅刻なんだけど…』

爽やかなイケメンボーイは言った。アキラは慌てて腕につけていた可愛らしい腕時計を見る。

『ヤッバアアアアアイ!!! 完全に遅刻じゃん!』

アキラはガクツと肩を落とす。そんなアキラをみたイケメンボーイは

『後ろ乗ってく?』

イケメンボーイは満面な笑みを覚えて言った。でもアキラは、
『で…でも……』

『早く乗って。遅刻するじゃん』

イケメンボーイはアキラを乗せる気マンマンだった。アキラは顔を
真っ赤にし

『じゃっ…じゃあ、お言葉に甘えて』

『うん。じゃあ行こっか』

『う…うん』

コレが彼女たちの出逢い。そしてこれがアキラの初恋にして初
目惚れ。少年は自転車をこぐ、アキラは後ろに乗っている。

『あの…名前なんて言うの？』

アキラは少年に問いかけた。

『俺の名前？ さあ…で、問題です。俺の名前はなんでし

よーか？』

少年はアキラに問題をだした。『問題出された！？ えっと…』

…… ほら… え… っと… 分かりませーん』

っとアキラが真剣に考えているのをチラッと見た少年はクスクス
と笑った。アキラはほっぺをぶくーっと膨らませていた。そん

なアキラを見た少年は

『じゃあ正解を発表します。俺の名前は春阪大雅^{はるさかたいが}15歳、 3

月16日生まれのお座です。好きな食べ物は…』

っと大雅は好きな食べ物を言おうとしているときに

『ちよつと待ったー！』

アキラが止めに入った。さすがに好きな食べ物を言った後の展
開が読めたのだろう… 大雅はまたクスッと笑った

『やっとツツコンでくれた。じゃあ次、君の名前教えて？』

『私の名前は…』 っとアキラが言おうとした瞬間、 キーン

コーンカーンコーン！ キーンコーンカーンコーン。

これはアキラ達を通う高校のチャイムだ。もうお分かりだろう、
彼らは名前の当てっこゲームをしている間に五分たっていた。2

人は同時に

『あー！ー！ー！』 『あー！ー！ー！』

言ったタイミングはほぼ一緒だ。 大雅は慌ててペダルを漕ぐ

『今から飛ばすよ』

大雅は猛スピードで自転車を走らせる。 アキラはあわあわしてながら

『春阪くん。 速すぎるよ』

アキラはジェットコースターに乗っているような感じになっている。 大雅は早く学校に着かなきゃっと思いいアキラの話は聞いている。 アキラはギャー！ー っと叫び声をあげていた。 すると大雅はペダルを漕ぐのをやめた。 なぜかとゆくと、

『ハアハア。 着いた』

そう。 学校に着いたのだ。

でもなぜか学校の正門が開いている。 正門が開いてるのは当たり前だ、でも先生も正門の前に立っている、 同じ学生服を来ている人達がズラズラやってくる、 そこで2人は気づいた。

先のチャイムは予鈴だったのだ！ー！と、

二人は苦笑した。 アキラは自分の名前を大雅に教えていないことに気づいた。

『私の名前まだ言っ てなかったよね？ 私は空見アキラ。 よろしく』

『空見って変わった名字だね。 よろしく』

これで二人の自己紹介が終了した。

このあと、二人は下足室に向かい自分のクラスが何組が分かる紙を見に行った。この紙をクラス分け表というのだろうか。

『春阪くん何組？』

『俺は1 - B組だつて』

『じゃあ一緒だ。これから一年間よろしく』

『おう。よろしく』

どうやら、アキラと大雅は一緒のクラスらしい。アキラはすごく嬉しそうだった。

二人は1 - B組に行った。教室に入ってまず黒板を見た。そこに自分の席がどこか書いている。

アキラと大雅は席が離れていた。『……残念……』

アキラの心の声…… もれてますよ

『なんか言つた？』

『な……何も言つてないよ』

大雅に聞かれてすぐごまかしたアキラ、はははと愛想笑いまですている。すると今度は本鈴のチャイムがなり、先生が入ってきた。

『え、私がこのクラスの担任の筈河英一です。一年間よろしくな！』

筈河英一先生、がたのいい体つきをしているさらに紺のスーツを来ていてすごく大人な男性って感じがする。茶色い短髪でいかにもスポーツマンな先生だ。しかもイケメン！

『まずは体育館に行って入学式をします。そのあとは一度教室に戻ってきて自己紹介をしてもらうよ。』

『はい。先生、自己紹介いやです！。』

『織部さん……それはムリだ』

『え、明日にしょ？ 自己紹介！』

『はいはい。とりあえず体育館に行きますよ』

笈河先生は話を切って生徒を体育館に移動させた。入学式は大体2時間弱で終わった。そのあと30分間のクラブ紹介…バスケット部から始まり最後は軽音部で終わった。軽音部は一曲演奏していった。入学式&クラブ紹介が終わり教室に戻った生徒達、ここからは自己紹介が始まる……

『じゃあ自己紹介をしてもらいます。』

クラスのほとんどが、え〜!!! と言っただろう。顔文字を使うならこれだ↓(。o。;)

『じゃああいうえお順で』

先生がそう言うとしぶしぶ右側の一番前の席の子が自己紹介をした。

『…愛坂隆太あいさかりゅうたです…。よろしく…』

愛坂くんが席に座ると先生がよろしく!と言いながらパチパチと拍手をした。クラスの子も拍手をする人もしない人がいる。アキラは拍手をしますよ。

愛坂隆太、黒い坊主のクールな子。身長は180センチぐらいすらーっとした体、手足も長く無表情な男の子。

そんなこんなで自己紹介は織部さんに……

『私かあ〜… まあしやない… ゴホンッ。 織部沙織です』

よろしくね〜。ちなみに彼氏募集中だよ〜』

『お…織部…』

『どしたん? 先生?』

『いや…。なんでもない…。よ…よろしく』

先生は引き笑いをしながら拍手をパチパチとした。そして自己紹介が進みアキラの番に、

『えっと… 空見アキラです。 よろしくお願いします』

すごく普通なあいさつだった。

さすがその辺にいそうな子のあいさつだ

これぞ、ザ・普通だろう

そんなこんな次は大雅の自己紹介に

『春阪大雅です。 15歳でうお座の3月16日生まれ、 好きな食べ物はい』

『はい。ストップ〜!! 春阪、時間がないからその辺にしとこ』

『へ〜い。好きな食べ物はカレーです よろしく』
『まあいいか… よろしく!』

パチパチと一番始めよりも拍手をする人が多くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0089p/>

メモリーズ

2010年11月19日22時43分発行